



JSQC ニュース

No.241

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話.03(5378)1506 FAX.03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス「第16回アジア品質管理シンポジウム(16AQS)開催報告」
- 2-私の提言「ビジネスプロセスの変化に適応した管理技術の提供」
- 3-第32年度事業計画/12月の入会者紹介
- 4-事務局からのお知らせ/行事案内/公募案内

第16回アジア品質管理シンポジウム(16AQS)開催!!

16AQS組織委員長 **飯塚 悦功**
同プログラム委員長 **鈴木 和幸**

2002年11月15日・16日に、東京(東高円寺日科技連)にてJSQC主催の第16回アジア品質管理シンポジウム(16AQS)が開催されました。ANQ設立の記念すべき大会として、ANQメンバーであるアジアの10組織の他Sweden、Peruからの参加をあわせ海外から68名、国内から99名の計167名の品質管理の専門家が参加しました。



15日のOpening Sessionにて、JSQCの高橋会長の基調講演に引き続き、平沼経済産業大臣からの祝辞、そして次の9組織の代表から、アジアの各地域での品質の飛躍的な躍進状況、そしてANQ設立によるさらなる経済発展への豊富と期待が述べられました；

China Association for Quality (CAQ)

Chinese Society for Quality (Chinese Taipei) (CSQ (Chinese Taipei))
Hong Kong Society for Quality (HKSQ)
Indian Society for Quality (ISQ-India)
Indonesian Quality Management Association (IQMA)
Iranian Society for Quality (ISQ-Iran)
Korean Society for Quality Management (KSQM)
The Standards and Quality Association of Thailand (SQAT)
Directorate for Standards and Quality (STAMEQ) Vietnam



また、田口玄一先生の2時間半にわたる「ロバストデザインを中心とした「田口メソッド」のチュートリアル講演は、氏の哲学を伺うことができました。



16日は、トヨタ自動車(株)内藤氏による特別講演が初めになされ、

トヨタ生産方式の変遷とそのITとの融合を通して、ものづくりの原点、特にその考え方、精神構造、行動様式を学ぶことができました。

引き続き、研究発表としてInvited Session(9件)・Oral Session(39件)・Poster Session(12件)がなされました。これらの研究発表は、いずれもアジアにおけるTQM活動の実践、最新の動き、手法と理論、そしてマネジメントの質の高さを実感できる内容であり、かつタイムリーなテーマが数多くみられました。Proceedingにおさめられた論文は計511ページにわたり、平均8.5ページとなる力作そろいです。



また、人があふれんばかりの懇親会とそれに引き続くSIG(Special Interest Group)により、アジアにお

けるTQM専門家の各分野ごとの活
 発な議論を通し、友好を計ることが
 できました。

さらに、高層ビル建設現場への見
 学へは約50名の参加がありました。
 本会議を通して、アジアの和が計ら
 れ、さらなる質の向上へつながるこ
 とを確信した会議でした。



そもそも今回のAQSはこれまでの
 3組織（KSQM、CSQ、JSQC）に
 よる持ち回り型、合同学会という性
 格から、広くアジアからの論文発表

を求めるアジア地域における一大品
 質大会を志向したのですが、第1
 回目としては「成功」と評価してよ
 いと思います。今後、このコンセプ
 トを踏襲して、論文の質を上げるこ
 と、発表数・参加者数を増やすこと、
 時代の要請への感受性を研ぎ澄まし
 たメッセージを発信することなどが
 課題になりますが、よいキックオフ
 ができたと思っています。

16AQSを直接・間接に、技術的・
 精神的・財政的に支援した貢献し
 て下さった多くの関係者の使命感と
 献身に感銘するとともに、言葉では
 とても言い尽くせない感謝の意を少
 しでもお伝えしたいと存じます。と
 く当初から企画の内容のわりに少
 数で過酷な負荷がかかることを覚悟

の上で多大な業務をこなしてくれた
 国際委員会委員（16AQS組織委員）
 プログラム委員会委員の動きは、ど
 のような賞賛をしてもそれに恥じる
 ことはないことをご報告しておきま
 す。さらに、16AQSにおいて、精神
 的に余裕を持てた理由の一つに寄付
 金があることをご報告しておきま
 す。絶対に赤字になることのない原
 資を持ち、様々の再生的決断の場面
 において、迅速かつ果敢に諸施策を
 決めることができたのは、AQS・国
 際活動支援の寄付金でありました。

今後は、北京で開催予定の次回
 AQSへの技術的・財政的支援、及び
 別に報告のあるANQ議長組織とし
 てのJSQCの体制が課題となります。

以上

私の提言

ビジネスプロセスの変化に適応した管理技術の提供

日本電気 品質推進部長 坂 康夫



最近、「品質
 危機」と言って
 現状の品質管理
 を憂いておられ
 る発言を聞く機
 会がある。社会
 問題にもなった
 事故を取り上げ
 て、品質管理を
 チャンとやって
 おれば起こらな
 かったのではない
 かと説かれてお
 り、90年代のよ
 うにTQCを蘇せ
 ることが必要だ
 とも言われている。
 これを否定する
 ものではないが、
 産業構造の
 変化、ビジネス
 プロセスの
 変化およびその
 問題の本質を理
 解して置く必要
 がある。

品質管理部門の言い分を聞いてみる

と、人がいない、時間がない、業務を
 評価されないとの不満が聞こえる。こ
 の背景には、厳しい経営環境の中で、経
 営者は株主を意識して、目先の収益重
 視、株価重視に走り、売上が伸びない
 ところを費用削減でリストラが実行さ
 れている。そこには、質重視、顧客価
 値創造などの、長期的視野に立った考
 え方は少ないように見える。リストラ
 による人員削減の対象になるのは先ず
 スタッフであり、その対象は品質スタ
 ッフも例外ではない。

一方、ビジネスプロセスも凄いスピ
 ードで変化している。「世界の工場、
 中国」と言われるように、コスト削減
 を狙いとした中国EMS企業への生産
 委託、中国からの部材調達が大きく伸

長している。また、新しいSIerと言う
 ビジネスモデルも出てきて、オープン
 調達のビジネスが盛んになってきた。

最近では、F社のHDD問題が話題に
 なっているが、これは一社の品質保証
 のミスではなく、品質チェーンの問題
 だと言われている。従来は部材から完
 成品までを自社または系列会社で担当
 していた「垂直統合生産方式」であっ
 たのが、得意なプロセスを担当して高
 い生産効率をあげる「水平分業生産方
 式」に変わった時に、モノ作りに必要
 な情報共有が途絶えたことも、大きな
 原因の一つと言われている。この様な
 環境変化の中で、製造現場を持たなく
 なった品質管理屋、製造現場を知らない
 技術者が対応方法を分からず、結果
 として事故処理のみに追われてしまっ
 ている。

今、必要なことは、品質管理活用の
 フィールドが凄いスピードで変化して
 いることを知ることであり、彼らの要
 求にあった管理技術と教育の機会を提
 供することだと考えている。

社団法人日本品質管理学会第32年度事業計画

行事 / 月		H14 10月	11月	12月	H15 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
研究発表会			第68回 関西 15日>						第71回 本部 31日...			第72回 中部	第73回 関西	
年次大会・通常総会		第32回 26日... 武蔵工業大学												第33回 25日... 名古屋工大
講演会		第84回 本部 4日>				第85回 本部		第86回 中部	第87回 関西		第88回 3学会共催 中部			
ヤングサマーセミナー												第11回 下旬		
シンポジウム			16AQS 15日> 16日...					第90回 本部 10日"		第91回 中部	第92回 本部 第93回 関西		第94回 本部	第95回 関西
事業所見学会	本部						第287回 バイオニア 川越工場	第289回 18日> サンデン フォレスト		第291回				
	中部					第288回		第290回			第292回			
	関西						第282回		第284回		第293回		第294回	
クオリティパブ			第32回 22日>		第33回 30日"		第34回		第35回		第36回		第37回	
その他の行事													23, -24, 17AQS 北京郊外	
理事会		334回 15日,		335回 2日・		336回 28日>			337回 14日,"		338回 16日,"		339回 17日,"	340回 15日,"
庶務・会員サービス・ 規定・広報・会計合同委員会		8日,	27日,"			21日>			7日,"		9日,"		10日,"	8日,"
投稿論文審査委員会		11日>	21日"	16日・	22日,"	18日,	19日,"	17日,"	9日>	6日>	4日>	1日>	5日>	3日>
編集委員会			7日"	17日,	31日>									
事業委員会		4日>	6日"	4日,"	10日>	6日"								

2002年12月の入会者紹介

2002年12月理事会において、下記のとおり正会員35名準会員12名公共会員1口の入会が承認されました。

(正会員35名) 藤井 高信(帝人化成)
後藤 光範(個人事業者) 久慈 聡
(国土交通省) 大村 次・立松 宏一
(竹中工務店) 小林 高(ナブコ) 植
松 博之(植松行政書士事務所) 山崎
建夫(住友スリーエム) 池田 俊也(慶
応義塾大学) 清水 正孝(東京電力)
近藤 龍三郎(協和発酵工業) 黒柳 美
明(アイシン精機) 小島 久義(ジャト
コ) 浮田 洋子(個人事業者) 神野

仁志(ダイキン工業) 稲木 優(ポーラ
化成工業) 畠山 秀夫(物質・材料研究
機構) 鎌田 敏英(松下電工) 栗原
正利(松下電器産業) 光富 敏夫(本田
技研工業) 水谷 優孝(日本アエロジル)
河合 広明(旭化成) 川崎 信(リコ
ー) 田飼 俊宣(参天製薬) 田邊 一
彦・中曾根 潤・越 大亮(アスプロコミュ
ニケーションズ) 堀田 一美(コーサー)
前田 操治・横田 浩(前田建設工業)
糸野 淳・寺倉 道生(豊田自動織機)
中里 恵一(京三製作所) 小澤 恒彦
(日本科学技術連盟) 池谷 英敏(日本
ピニロン)

(準会員12名)

朴 貞子(大阪府立大学) 遠矢 雅史

(早稲田大学) 宇野 隆幸・金 路・高
田 綾・高山 和幸・前原 洋樹(電気通
信大学) 趙 凌雲(国際学友会日本語学
校) ヌガムナロンチャイ チャイラット
(慶応義塾大学) シャヒン ハリルプルナ
フトフォルシュ(東京理科大学) 藤田
悦子(山梨大学) 渡邊 真哉(神戸大学)

(公共会員1口)

全国大学生活協同組合連合会
書籍事業部図書サービス(宮下 良太)

正会員: 3173名

準会員: 133名

賛助会員: 189社、215口

公共会員: 22口

事務局からのお知らせ

「ISO9000シリーズ審査研究会最終報告書 ISO9001:2000に基づく第三者審査のためのガイドライン」頒布のお知らせ

この度、標題の成果が本学会の研究成果としてまとめられましたので、ご希望の会員の方に実費で頒布いたします。

1. 申込方法：E-mailまたはFAXにて資料名、部数、会員番号、氏名、所属、送付先住所、電話番号をご連絡の上お申込みください。

申込先：本部事務局 E-mail apply@jsqc.org FAX 03-5378-1507

2. 資料代：1冊(A4判150頁)会員2,150円(税込み)非会員2,700円(税込み)
送料(冊子小包)：1冊310円、2冊380円 他多数の場合、事務局までご連絡ください。申込みと同時に下記宛お振込みください。

振込み先：日本品質管理学会
三井住友銀行 渋谷支店 普通預金 0922517

資料は入金を確認の上、郵送いたします。

近藤次郎氏
文化勲章 受章

当学会名誉会員の近藤次郎氏が文化勲章を受章されました。近藤氏は、戦後初の国産旅客機YS-11の基本計画策定や応用数学の手法を使った大気汚染の予測などに成果を上げられました。

益々のご活躍を期待するとともに心からお祝い申し上げます。

行 事 案 内

第33回クオリティバブ(本部)

テーマ：ヒットドリンク「生茶」「聞茶」
はこうして生まれた
- ニーズ探索からCMまで・飲料開発の舞台裏 - (仮題)

ゲスト：宮代 清尚氏(キリントロピカーナ マーケティング部)

日 時：2003年1月30日(木)
18:00~20:30

会 場：(財)日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階ラウンジ

会 費：会員3000円 非会員4000円
準会員・学生一般2000円
(含軽食)

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji.html>

第287回事業所見学会(本部)予告

見学先：パイオニア川越工場

日 時：2003年3月上旬

定 員：30名(先着順・会員優先)

参加費：会 員2500円 準会員1500円
非会員3500円 学生一般2000円

申込方法：会員種類・氏名・勤務先・連絡先住所TEL・FAXをご記入の上、本部事務局宛にFAXまたはE-mailにてお申し込みください。

第85回講演会(本部)予告

テーマ：日本のものづくりの強さ
- トヨタ生産方式の原点とITへの融合に学ぶ - (仮題)

日 時：2003年2月予定

会 場：(財)日本科学技術連盟
東高円寺ビル 講堂

募集人数：150名

参加費：会 員4000円 準会員2000円
非会員5000円 学生一般2500円

事務局連絡先

[本 部]

〒166-0003
東京都杉並区高円寺南1-2-1
(財)日本科学技術連盟
東高円寺ビル内
TEL03 - 5378 - 1506
FAX03 - 5378 - 1507
E-mail : apply@jsqc.org

[中部支部]

名古屋市中区栄2-6-1
白川ビル別館7階
(財)日本規格協会 名古屋支部内
TEL052 - 221 - 8318
FAX052 - 203 - 4806
E-mail : nagoya51@jsa.or.jp

[関西支部]

大阪市北区堂島浜2-1-25
中央電気倶楽部
(財)日本科学技術連盟
大阪事務所内
TEL06 - 6341 - 4627
FAX06 - 6341 - 4615
E-mail : a-kobayashi@juse.or.jp

統計数理研究所教員公募案内

公募人員：文部科学教官 助手1名

所 属：予測制御研究系
制御理論研究部門

採用時期：2003年3月1日以降の早い時期

応募資格：博士の学位を有する者、又は取得見込み者

応募期限：2003年1月8日(水)必着

問い合わせ：管理部庶務課人事係
TEL03-5421-8707
FAX03-3443-3552

詳 細：http://www.ism.ac.jp/

(財)日本適合性認定協会
管理職職員募集

募集人員：環境マネジメントシステム
(EMS)関連の認定業務1名
校正機関の認定関連業務1名

採用時期：2003年4月

応募資格：36歳~45歳程度
40歳~55歳程度
英語力：共英検準一級又はTOEIC700以上

応募期限：2003年1月31日(金)

問い合わせ：総務部 東海
e-mail:ttokai@jab.or.jp
(件名に職員募集と記入)

詳 細：http://www.jab.or.jp